

平成 25 年度愛知県がんセンター公開講座(第 3 回)のご案内
「がん診療における放射線治療の役割」
= 平成 25 年 7 月 28 日(日)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「陽子線治療の現状と展望」

陽子線治療は放射線治療の一種で、加速したエネルギーに応じてある一定の深さで放射線を止めることができるため、有害事象の減少が期待される治療法です。多くの場合、外来通院での治療が可能であり、がんの発生した場所などで手術が困難な場合にも適用できる場合があります。平成 25 年 2 月に治療を開始した名古屋陽子線治療センターでは前立腺がん、肝臓がん、肺がんなどの治療を行っておりますが、その概略と今後の発展が期待される技術について解説します。

名古屋陽子線治療センター 陽子線治療科部長 荻野浩幸

「最新の放射線治療」

放射線治療には 100 年以上もの歴史がありますが、体にメスを入れることなくがんを治療することが出来るという体に負担をかけない良いイメージを持たれている反面、「放射線は怖い」という悪い印象も持たれることが有り、一般の方にはどのようなものなのかわかりにくいものとなっています。

また、新しい装置が次々に開発されていますが、新しいものやマスコミで取り上げられていたものが無条件に良いものとの誤解を抱かれることもあります。

放射線治療にはどのようなものがあるのか、何がどう違うのかなどにつきお話ししようと思います。

中央病院 放射線治療部 医長 立花弘之

「治療開始までの流れと実際」

近年、がん治療における放射線治療の出番が増え、放射線治療を受けるがん患者数が年々増加傾向にあります。そのため、それに関連した名前を聞く機会が多くなっているかと思えます。しかし、放射線治療を開始するためには、治療計画のための CT 撮影、位置照合写真撮影等のプロセスがあることや実際の治療の様子は世間あまり知られていません。今回は、治療を受ける患者さんが体験していくことを、少しでもイメージを持っていただけるようお伝えしていきたいと思えます。

中央病院 看護部 がん放射線療法看護認定看護師 久保知